

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月9日 16時00分～18時30分)

## 注 意 事 項

- 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
- 解答方法は次のとおりである。
  - (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質間に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。
  - (例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与するのは  
どれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要な  
のはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の(b)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
↓					
101	<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b
	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> c
	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> c
	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
	<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の(a)と(e)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
↓					
102	<input checked="" type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/> b
	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c
	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> c
	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
	<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> e

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、

(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の (a) と (c) と (d) をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
103 ( ) (b) ( ) ( ) (e)

答案用紙②の場合、

103 (a) (b) (c) (d) (e)  
103 ( ) (b) ( ) ( ) (e)  
→ ( ) ( ) ( ) ( ) (e)

(3) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答： ① ② %

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

(例4)の正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

答案用紙②の場合、

104 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨







- 1 世界保健機関〈WHO〉の目的で正しいのはどれか。
- a 疾病の国際的伝播を最大限防止する。
  - b 人道的かつ秩序ある移住を推進する。
  - c 開発途上国の経済・社会の発展、生活水準を持続的に発展させる。
  - d 世界中の子供たちが「子供の基本的人権」を享受できるようにする。
  - e 人々が健全で活発な生活を送るために十分な量・質の食糧を供給する。

- 2 大腿静脈の周辺臓器の解剖で誤っているのはどれか。
- a 鼠径靱帯は坐骨結節に付着する。
  - b 鼠径靱帯の頭側には後腹膜腔がある。
  - c 縫工筋は大腿三角の一辺を構成する。
  - d 大腿静脈は大腿動脈の内側を走行する。
  - e 大腿神経は大腿動脈の外側を走行する。

- 3 正常新生児で正しいのはどれか。
- a 7頭身である。
  - b 胸式呼吸が主体である。
  - c 大泉門は生後1か月ごろ閉鎖する。
  - d 生理的体重減少は10%以下である。
  - e 生理的黄疸のピークは生後1~2日である。

4 抗精神病薬の作用と関連しているのはどれか。

- a ドパミン受容体
- b セロトニン受容体
- c モノアミンオキシダーゼ
- d アセチルコリンエステラーゼ
- e ノルアドレナリントランスポーター

5 遺伝子-環境交互作用の説明で正しいのはどれか。

- a 遺伝子と環境の影響が交互に出現する。
- b 環境中の有害物質で遺伝子変異が起こる。
- c 遺伝子組み換えの生物が環境に影響を与える。
- d 遺伝子と環境のそれぞれが原因の疾患がある。
- e 遺伝子の違いにより環境の健康への影響が異なる。

6 副腎皮質と共にホルモン合成酵素が存在するのはどれか。

- a 視床下部
- b 下垂体
- c 副甲状腺
- d 副腎髄質
- e 性 腺

- 7 保健医療に関する国際的な提言と内容の組合せで正しいのはどれか。
- a アデレード宣言 ————— あらゆる政策において健康を考慮する。
  - b アルマ・アタ宣言 ————— 知りえた患者の秘密を尊重する。
  - c ジュネーブ宣言 ————— 世界のすべての人に健康を届ける。
  - d ヘルシンキ宣言 ————— 他の医師の意見を求める権利を認める。
  - e リスボン宣言 ————— 倫理審査委員会を設置する。
- 8 職場で健康診断の実施が規定されているのはどれか。
- a 雇入時
  - b 退職した時
  - c 労働災害発生時
  - d 長時間労働した時
  - e 休職から復職した時

9 治療薬 A の疾患 B に対する治療効果を調べるために臨床試験を行った。疾患 B 患者を対象として、治療薬 A 投与群（介入群）とプラセボ投与群（対照群）にランダムに割り付けた。対象者数は 240 人で、治療効果を 3 日目症状消失率で比較検討した。得られた結果を表に示す。

	介入群	対照群	P 値
対象者数	120 人	120 人	
3 日目症状消失率	28 %	15 %	0.02

この臨床試験の統計解析手法はどれか。

- a t 検定
- b  $\chi^2$  検定
- c 生存分析
- d 線形回帰
- e 比例ハザードモデル

10 国民生活基礎調査に含まれないのはどれか。

- a 医療
- b 教育
- c 所得
- d 福祉
- e 保健

11 原発巣コントロール良好な転移性脳腫瘍の治療で、定位放射線照射が適切なのはどれか。

- a 髄膜播種を伴う病変
- b 脳ヘルニアを伴う病変
- c 多数の病変(15個以上)
- d 薬物療法に高感受性の病変
- e 小さい病変(最大径3cm以下)

12 乳癌術後の上肢リンパ浮腫に対する治療で適切なのはどれか。

- a 温熱療法
- b 装具による固定
- c 促通訓練
- d 弾性着衣による圧迫
- e 電気療法

13 主要な曝露源が魚介類摂取であるのはどれか。

- a 鉛
- b カドミウム
- c メチル水銀
- d 塩化ビニルモノマー
- e テトラクロロエチレン

14 皮膚の構造や機能で正しいのはどれか。

- a Merkei 細胞は免疫担当細胞である。
- b 皮脂の主成分はコレステロールである。
- c チロシナーゼはメラニン生成に必須である。
- d アポクリン汗腺の導管は表皮に直接開口する。
- e ヘミデスマソームは表皮細胞間の接着に関わる。

15 医療保険はどれか。

- a 医療扶助
- b 介護保険
- c 国民年金
- d 後期高齢者医療制度
- e 労働者災害補償保険

16 B 細胞の活性化に直接関与する細胞はどれか。

- a NK 細胞
- b ヘルパー T 細胞
- c マクロファージ
- d 制御性 T 細胞〈Treg〉
- e 細胞傷害性 T 細胞〈CTL〉

17 医科診療医療費が最も大きいのはどれか。

- a 呼吸器系の疾患
- b 循環器系の疾患
- c 精神及び行動の障害
- d 内分泌、栄養及び代謝疾患
- e 筋骨格系及び結合組織の疾患

18 保健所の業務で誤っているのはどれか。

- a 精神疾患の相談
- b 医療機関への立入検査
- c 身体障害者手帳の交付
- d 人口動態統計に関する業務
- e 結核発生時の接触者健康診断

19 Which of the following is a target disease for neonatal screening using tandem mass spectrometry?

- a Wilson disease
- b Spinal muscular atrophy〈SMA〉
- c Methylmalonic acidemia〈MMA〉
- d Severe combined immunodeficiency〈SCID〉
- e Congenital cytomegalovirus infection〈cCMV〉

20 精神症状と障害される精神機能の組合せで正しいのはどれか。

- a 恐怖 ————— 思考
- b 無為 ————— 意欲
- c 離人症 ————— 発達
- d 両価性 ————— 自我
- e 学習障害 ————— 知能

21 従属人口指数の分母はどれか。

- a 総人口
- b 年少人口
- c 成人人口
- d 老年人口
- e 生産年齢人口

22 我が国の最近 5 年間の年間総出生数に対する、母体年齢 40 歳以上の出生数の割合に最も近いのはどれか。

- a 1 %
- b 6 %
- c 16 %
- d 26 %
- e 36 %

23 求心性視野狭窄をきたす疾患はどれか。

- a うつ血乳頭
- b 頭蓋咽頭腫
- c 加齢黄斑変性
- d 球後視神経炎
- e 開放隅角緑内障

24 精神運動興奮状態の患者に対して、精神保健指定医が行うことのできる行動の制限で誤っているのはどれか。

- a 隔離
- b 身体拘束
- c 退院の制限
- d 面会の制限
- e 処遇改善請求の制限

25 The constitution of the world health organization (WHO) is shown below.

“Health is a state of complete physical, ( ) and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

Select the correct answer from below to complete the sentence.

- a mental
- b spiritual
- c emotional
- d psychiatric
- e psychological

26 早朝空腹時の主な血糖調節機構はどれか。

- a 肝臓でのブドウ糖放出
- b 腎臓でのブドウ糖再吸収
- c 脳でのブドウ糖取り込み
- d 骨格筋でのブドウ糖取り込み
- e 副腎での糖質ステロイド合成

27 地域包括支援センターの業務はどれか。

- a 高齢者虐待の防止
- b 発達障害児の相談
- c 地域住民のがん検診
- d べき地医療対策の企画
- e 通所リハビリテーションの提供

28 成人期に低身長をきたすのはどれか。2つ選べ。

- a Marfan 症候群
- b Turner 症候群
- c Kallmann 症候群
- d Prader-Willi 症候群
- e アロマターゼ欠損症

29 顔貌の特徴と疾患の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 下顎突出 ————— 先端巨大症
- b 仮面様顔貌 ————— Parkinson 病
- c 眼球突出 ————— Sheehan 症候群
- d 眉毛脱失 ————— Cushing 病
- e 満月様顔貌 ————— Basedow 病

30 正期産児で、日齢0より日齢28で高値となるのはどれか。2つ選べ。

- a IgA
- b IgG
- c IgM
- d 白血球
- e ヘモグロビン

31 医療計画において二次医療圏単位で基準病床数が設定されるのはどれか。2つ選べ。

- a 一般病床
- b 結核病床
- c 精神病床
- d 療養病床
- e 感染症病床

32 肝生検が診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a Gilbert 症候群
- b 肝外門脈閉塞症
- c 自己免疫性肝炎
- d Budd-Chiari 症候群
- e 非アルコール性脂肪性肝炎

33 高齢者の入院時の栄養評価で低栄養が疑われるのはどれか。2つ選べ。

- a 褥瘡
- b 難聴
- c 腰痛
- d 高血圧
- e 体重減少

34 アニオンギャップが開大する病態はどれか。3つ選べ。

- a 下痢
- b 糖尿病ケトアシドーシス
- c 乳酸アシドーシス
- d 尿細管性アシドーシス
- e 尿毒症

35 医療機関での感染性廃棄物の処理で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 収納容器を満杯まで使用する。
- b 収納容器を運搬する際は密閉する。
- c 注射針を段ボール容器に廃棄する。
- d 発生したその場で容器に収容する。
- e 使用した舌圧子は処理の対象となる。

36 73歳の女性。左手関節痛を主訴に来院した。2時間前に自宅の玄関で転倒し、左手をついた際に痛みが出現した。左手関節に腫脹と圧痛を認める。左母指と示指の掌側にしびれと知覚鈍麻を認める。左手関節のエックス線写真(別冊No. 1)を別に示す。

障害されている神経はどれか。

- a 筋皮神経
- b 後骨間神経
- c 尺骨神経
- d 正中神経
- e 槍骨神経

別 冊

No. 1

37 35歳の女性。拳児希望のため来院した。これまでに3回の妊娠歴があるが、いずれも胎児心拍確認後、妊娠6週、8週、7週で心拍が消失し流産した。不正性器出血はない。初経は13歳、月経周期28日型、整、持続5日間。内診で子宮は正常大で付属器を触知しない。

次回妊娠に向けた検査で適切でないのはどれか。

- a 甲状腺機能検査
- b 子宮頸管長測定
- c 子宮卵管造影検査
- d 抗リン脂質抗体測定
- e カップルの染色体検査

38 68歳の女性。腹膜炎の手術後でICUに入院中である。3日前に消化管穿孔による急性汎発性腹膜炎で緊急手術が行われた。術後は気管挿管されたままICUに入室し、人工呼吸管理を受けている。本日から呼吸状態が悪化し、気管からピンク色泡沫状の分泌物が吸引された。心拍数90/分、整。血圧124/84mmHg。動脈血ガス分析( $F_1O_2$  0.7, 呼気終末陽圧(PEEP) 5cm H<sub>2</sub>O) : pH 7.32, PaCO<sub>2</sub> 42 Torr, PaO<sub>2</sub> 69 Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 23 mEq/L。胸部エックス線写真(別冊No. 2)を別に示す。心エコー検査で左室駆出率60%、左室壁運動に異常を認めない。有意な弁膜症を認めない。

診断はどれか。

- a 肺膿瘍
- b 肺胞出血
- c 心原性肺水腫
- d 急性間質性肺炎
- e 急性呼吸窮迫症候群(ARDS)

別冊

No. 2

39 58歳の男性。①意識障害のため救急車で搬入された。5年前に②糖尿病でインスリン自己注射を開始した。2年前から③職場の人間関係が悪化し、仕事を休みがちである。同時期から、④食事は不規則になり、飲酒量が増えた。また、糖尿病の治療を自己中断していた。数日前から姉との連絡が途絶えたため、姉が心配して自宅を訪ねたところ、意識がもうろうとして台所で倒れているのを発見し、救急車を要請した。16年前に離婚してからは独居である。意識レベルはJCS II-20。身長174cm、体重58kg。体温37.0℃。心拍数92/分、整。血圧98/64mmHg。⑤呼吸数24/分。糖尿病ケトアシドーシスと診断され入院した。

下線部のうち、社会的な健康規定要因(Social Determinants of Health)〈SDH〉はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

40 26歳の女性。臨床研修1年目の医師。針刺しによる刺創で受診した。HBs抗原陽性患者の手術の助手を務めている最中に受傷した。ただちに患部を流水で洗浄した後、救急外来を受診した。これまでにB型肝炎罹患歴はなく、4年前にHBワクチンの接種歴がある。入職時のHBs抗体価は十分に高かった。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b HBワクチン接種
- c 核酸アナログ製剤投与
- d 抗HBsヒト免疫グロブリン投与
- e HBワクチン接種および抗HBsヒト免疫グロブリン投与

41 35歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠34週4日、妊婦健康診査のため来院した。これまで定期的に妊婦健康診査を受けている。身長158cm、体重59kg(非妊時51kg)。血圧110/78mmHg。下腿に軽度の圧痕性浮腫を認める。膣鏡診で性器出血を認めない。腹部超音波検査では胎児発育と羊水量に異常を認めない。母子健康手帳の記載内容(別冊No. 3A)と胎児心拍数陣痛図(別冊No. 3B)とを別に示す。

妊婦への説明で適切なのはどれか。

- a 「入院が必要です」
- b 「血液検査が必要です」
- c 「妊娠経過は順調です」
- d 「塩分を制限しましょう」
- e 「体重が過度に増加しています」

別 冊

No. 3 A、B

42 40歳の男性。特定健康診査で肥満を指摘され来院した。仕事はデスクワークが主体で、運動はしていない。身長171cm、体重100kg。脈拍84/分、整。血圧146/94mmHg。呼吸数17/分。尿所見：蛋白1+、糖1+。血液生化学所見：総蛋白7.1g/dL、アルブミン3.9g/dL、AST75U/L、ALT26U/L、 $\gamma$ -GT89U/L(基準13~64)、尿素窒素21mg/dL、クレアチニン1.3mg/dL、尿酸8.9mg/dL、血糖148mg/dL、HbA1c6.7%(基準4.9~6.0)、トリグリセリド260mg/dL、HDLコレステロール41mg/dL、LDLコレステロール181mg/dL。体重の減量を目的とした食事指導を行った。

食事摂取基準に基づいた指導内容で適切なのはどれか。

- a 食塩相当量の摂取は15gとする。
- b 総摂取エネルギー量は4,500kcalとする。
- c 脂質の摂取は総摂取エネルギー量の20~30%とする。
- d 蛋白質の摂取は総摂取エネルギー量の5~10%とする。
- e 炭水化物の摂取は総摂取エネルギー量の30~40%とする。

43 78歳の男性。右臀部周辺の痛みを主訴に来院した。1年前から前立腺癌に対しホルモン療法施行中である。3日前に旅行から帰宅後に右臀部の痛みと腫れを自覚した。痛みは徐々に右臀部全般に広がった。意識は清明。体温36.2℃。脈拍96/分、整。血圧102/68 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub>98%(room air)。右大腿から腰部にかけて紫斑を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。右臀部は硬く腫脹し、圧痛を認める。血液所見：赤血球391万、Hb 9.8 g/dL、Ht 32%、白血球7,950(好中球72%、好酸球1%、単球9%、リンパ球18%)、血小板35万。PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)、APTT 72.4秒(基準対照32.2)、フィブリノゲン433 mg/dL(基準186~355)、FDP 14 μg/mL(基準10以下)。血液生化学所見：総蛋白7.4 g/dL、AST 24 U/L、ALT 40 U/L、LD 218 U/L(基準124~222)、尿素窒素10 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL。CRP 0.8 mg/dL。

臀部痛の原因はどれか。

- a 筋肉内出血
- b 坐骨神経痛
- c 腸腰筋膿瘍
- d 大腿骨頭壞死症
- e 変形性股関節症

44 15歳の女子。定期受診で来院した。10歳時に全身性エリテマトーデス〈SLE〉と診断され、小児科に通院している。少量グルココルチコイド、ミコフェノール酸モフェチル及びヒドロキシクロロキンを内服し病状は安定している。13歳時にひとりで薬の管理をさせたところ、処方数と残薬数が合わないことから怠薬が判明した。以後、母親が薬の管理をしている。発達に問題はなく、学校の成績は良好で、今春、志望校に合格した。高校生になると忙しくなるので、本人を連れて受診できるか、母親が心配している。患者は質問に答えるのみで、自らの発言はない。高校進学を前に将来的な内科への移行を見据え、今後の管理を話し合うことにした。

適切な対応はどれか。

- a 以前の怠薬歴を注意する。
- b 本人のみに薬の自己管理をさせる。
- c 自宅での内服管理は引き続き母親に任せる。
- d 母親のみに通院してもらい処方箋を発行する。
- e 本人に自身の病気をどれくらい理解しているか確認する。

45 1歳10か月の男児。けいれんを主訴に両親に連れられて夜間救急外来を受診した。2日前から咳嗽と鼻汁がみられていた。本日の夕方までは元気で食欲も良好であったが、夜になって発熱に気付いた。下痢や嘔吐はなく、排尿も良好であった。その後左右差のない全身を強直させるけいれんが出現し、2分間持続した。1歳2か月時に同様のけいれんの既往がある。予防接種は、予定どおり接種している。意識は清明。身長84cm、体重11.2kg。体温38.5℃。脈拍128/分、整。血圧100/60mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub>99% (room air)。皮膚のツルゴールの低下はない。瞳孔は左右差なく、対光反射は正常。咽頭に軽度の発赤を認める。鼓膜に異常を認めない。胸部と腹部とに異常を認めない。項部硬直とKernig徵候とを認めない。四肢の筋緊張は正常で、腱反射の亢進を認めない。

救急外来での親への説明で適切なのはどれか。

- a 「輸液が必要です」
- b 「抗菌薬を投与します」
- c 「ビタミンKを投与します」
- d 「1時間後に再度診察します」
- e 「抗けいれん薬を投与します」

46 75歳の男性。がん検診で便潜血反応陽性を指摘され来院した。下部消化管内視鏡検査でS状結腸癌と診断され、結腸切除を予定している。約15年前から糖尿病を指摘され治療中である。喫煙は約20本/日であったが、5年前から禁煙している。飲酒は焼酎1合/日。身長162cm、体重59kg。体温36.6℃。脈拍76分、整。血圧132/72mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。左下腹部に圧痛を認める。尿所見：蛋白（-）、糖3+、ケトン体（-）。血液生化学所見：血糖180mg/dL、HbA1c7.1%（基準4.9~6.0）。

この患者の周術期血糖コントロールの目的で適切なのはどれか。

- a 創感染の予防
- b 脳血管障害の予防
- c 心血管イベントの予防
- d 深部静脈血栓症の予防
- e 糖尿病性神経障害の予防

47 28歳の初産婦（1妊0産）。妊娠40週、陣痛発来のため入院した。入院時内診所見で、子宮口は3cm開大、展退度50%、児頭下降度はSP-2cm。第1頭位。小泉門が先進し、3時方向に触知する。入院8時間後の内診所見で、子宮口は8cm開大、展退度80%、児頭下降度はSP±0cm。小泉門が先進し、6時方向に触知する。

分娩経過の評価で正しいのはどれか。

- a 正常経過
- b 第1回旋の異常
- c 第2回旋の異常
- d 第3回旋の異常
- e 第4回旋の異常

48 34歳の男性。会社員。昼休みに、屋上で下を覗き込んでいるところを、上司が見かけて、上司に付き添われて健康管理室に来室した。産業医が面談したところ、この社員が現在取り組んでいる仕事は難航しており、当面の間、解決のめどが立ちそうにないとのことであった。体調面では、ここ1か月の間、体の疲れが取れず、眠れていな。また、気分の落ち込みが激しく、食事もほとんど摂れていないようである。面談中に「自分など会社のお荷物だ。いっそのこと死んでしまいたい。昨日、練炭を買ってきました」と発言があった。直近3か月の月の残業時間は100時間、110時間、120時間であった。産業医から精神科を受診するように伝えたが、忙しくて時間が取れないと言っている。この社員は一人暮らしをしている。

面談実施後に、産業医から上司に対する発言で適切なのはどれか。

- a 「配置転換をしてください」
- b 「労災を申請してください」
- c 「疲れているので、今日は一人で早退させてください」
- d 「残業をさせる時は、夕食をきちんととらせてください」
- e 「今から会社の人が付き添って、精神科を受診させてください」

49 52歳の男性。腎機能低下を指摘され妻とともに来院した。1年前から下腿の浮腫を自覚していた。2週間前から浮腫が悪化したため、自宅近くの医療機関を受診したところ腎機能低下を指摘され、腎臓専門医を紹介受診した。30歳から高血圧症と糖尿病を指摘され、内服治療中であったが、通院は不定期であった。5年前に大腸ポリープで内視鏡的切除術を受けている。身長172cm、体重75kg。脈拍84/分、整。血圧156/92mmHg。SpO<sub>2</sub>98% (room air)。胸部に異常を認めない。両下腿に軽度の浮腫を認める。尿所見：蛋白3+、潜血(-)、1日尿蛋白6.5g/日。血液所見：赤血球316万、Hb9.8g/dL、Ht31%、白血球5,700、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白5.7g/dL、アルブミン3.4g/dL、尿素窒素68mg/dL、クレアチニン6.5mg/dL、eGFR8.1mL/分/1.73m<sup>2</sup>、HbA1c6.3%（基準4.9~6.0）、Na144mEq/L、K5.4mEq/L、Cl102mEq/L。腎代替療法として腹膜透析もしくは妻をドナーとした生体腎移植を希望している。

この患者に対する腹膜透析の説明で適切なのはどれか。

- a 「週3回の通院が必要です」
- b 「糖尿病があるため適応はありません」
- c 「腹膜透析開始後に食事制限は必要ないです」
- d 「腹膜透析を行ってからでも腎移植はできます」
- e 「内視鏡的切除術の治療歴があるため適応はありません」

50 45歳の男性。2か月前から生じた右腋窩の皮疹を主訴に来院した。被覆皮膚と癒着し波動を触れる径20mmの皮疹を認める。腋窩の写真(別冊No. 4A)と皮疹部の超音波像(別冊No. 4B)とを別に示す。

この皮疹の種類はどれか。

- a 丘疹
- b 荔癬
- c 囊腫
- d 膿疱
- e 膨疹



51 1歳6か月の男児。1歳6か月児健康診査のため母親に連れられて来院した。在胎40週、身長50cm、体重2,900g、正常分娩で出生した。来院時の身長81cm、体重10.5kg。1歳で離乳食から幼児食に移行し、1日3回の食事や間食のリズムはついてきたが、同じものしか食べない。

適切な指導はどれか。

- a 「生卵かけご飯を食べさせてみてはどうですか」
- b 「大人の食事と同じくらい味つけを濃くしてみましょう」
- c 「今は食事を楽しむことが大事ですからゆっくり進めていきましょう」
- d 「ミニトマトやブドウはのど越しがよいのでそのまま食べさせましょう」
- e 「口をあけたタイミングで食べさせたいものを口に押し込んでみましょう」

52 68歳の女性。骨粗鬆症を心配して来院した。若いときよりも身長が約2cm低くなり、娘からは背中が丸くなっていると指摘されている。腰痛の訴えはない。2年前に腰椎圧迫骨折の既往がある。立位姿勢は軽度の前屈位。腰部に圧痛や叩打痛を認めない。下肢の運動障害や知覚障害を認めない。腰椎エックス線写真では第1腰椎の圧迫骨折を認めた。骨密度検査(DXA)では、腰椎は若年成人平均値(YAM)85%、大腿骨頸部はYAM 82%であった。

骨粗鬆症治療薬の開始時期で適切なのはどれか。

- a 現時点
- b 腰痛が出現した時
- c 再度骨折を生じた時
- d 下肢の神経障害が出現した時
- e 腰椎または大腿骨の骨密度がYAM 70%以下となった時

53 45歳の女性。会社の定期健康診断で高血圧を指摘された。この結果を踏まえて、会社の産業保健チームでトータルヘルスプロモーションプラン(THP)を検討することになった。

このプランに含まれないのはどれか。

- a 降圧薬の処方
- b 運動の計画立案
- c 塩分制限食の調理指導
- d 飲酒と健康に関する講演会
- e 生活習慣の改善に伴う精神的ストレスのケア

54 1歳の女児。発熱と皮疹を主訴に母親に連れられて来院した。5日前から39~40℃の発熱が続いていたが、活気良好であったため自宅で様子をみていた。昨夜、母親が皮疹に気付いたという。意識は清明。体温39.4℃。脈拍144/分、整。血圧84/62mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub>100%(room air)。受診時の患児の顔面、上腕および背部の写真(別冊No. 5 A~C)を別に示す。口唇と舌に発赤を認める。咽頭に発赤を認めない。両側の頸部に径2.5cmのリンパ節を数個ずつ触知する。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢末端に紅斑と浮腫を認める。血液所見:赤血球400万、Hb11.5g/dL、Ht34%、白血球17,600(桿状核好中球5%、分葉核好中球62%、単球4%、リンパ球29%)、血小板45万、フィブリノゲン420mg/dL(基準186~355)。血液生化学所見:総蛋白6.0g/dL、アルブミン3.0g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST240U/L、ALT225U/L、LD380U/L(基準202~437)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.4mg/dL、尿酸4.0mg/dL、血糖98mg/dL、Na131mEq/L、K4.2mEq/L、Cl99mEq/L。CRP7.8mg/dL。

必要な検査はどれか。

- a 眼底検査
- b 皮膚生検
- c 頸部造影CT
- d 心エコー検査
- e 心筋血流シンチグラフィ



55 35歳の男性。頭部を打撲したため救急外来を受診した。約1時間前に運動中に転倒し後頭部を打撲した。受傷時に意識消失は認めなかった。来院時、意識は清明。①軽度の頭痛と②後頸部痛を訴えている。身長168cm、体重65kg。③体温37.3℃。脈拍76/分、整。血圧124/78mmHg。呼吸数20/分。神経診察で脳神経系に異常を認めず、四肢の麻痺も認めないが、④打撲時から現在までの記憶がない。⑤打撲部位の圧痛を認めたが、同部位に肉眼的な異常は認めなかった。

下線部のうち、頭部CTを行うべき所見はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

56 78歳の女性。左季肋部痛を主訴に来院した。6年前から脾臓原発の悪性リンパ腫に対して薬物による抗癌治療を継続しているが再発を繰り返しており、薬物による抗癌治療を行わない方針となった。1週間前から悪性リンパ腫による癌性疼痛に対してモルヒネの経口投与を開始したが疼痛が強くなり入院した。意識は清明。体温36.8℃。脈拍74/分、整。血圧132/78mmHg。呼吸数14/分。SpO<sub>2</sub>96% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。左季肋下に脾を4cm触知し、圧痛を認める。腹部CTで再発による脾臓の腫大を認めている。入院後、嚥下障害が出現し内服が困難となったためモルヒネ経口投与を中止し、モルヒネ皮下注射を開始した。

注意すべき症状や徵候はどれか。2つ選べ。

- a 発熱
- b 便秘
- c 口内炎
- d 皮膚潰瘍
- e 呼吸数低下

57 38歳の専業主婦。産後1か月の健診のため来院した。初めての児を1か月前に経産分娩した。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧126/76mmHg。子宮復古は良好で、悪露は正常であった。母乳哺育を行っているが、うまくできているか心配でよく眠れない。本人、夫ともに兄弟姉妹はおらず、両親は他界している。最近、転居したため、周囲に親しい友人はいない。エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)は14点(基準8点以下)であった。児は、出生体重3,096g、発育は順調である。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 抗精神病薬を処方する。
- b 精神科への受診を提案する。
- c 児と分離することを目的に本人を入院させる。
- d 本人の同意を得て市町村に患者情報を伝える。
- e 母乳哺育を中止し人工乳哺育にするように指導する。

58 76歳の男性。倦怠感を主訴に来院した。2か月前から食事をとってもおいしくなく、倦怠感が出現した。趣味についていた野球観戦をしなくなり、気分が落ち込んでいる。外出頻度が減り、1日のほとんどを自宅内で過ごしている。身長168cm、体重62kg。体温36.1℃。脈拍64/分、整。血圧138/88mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢の筋力は保たれており、起立と歩行に異常を認めない。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは30点(30点満点)。血液所見:Hb 14.2g/dL、白血球6,700。血液生化学所見:総蛋白6.9g/dL、アルブミン4.2g/dL、尿素窒素18mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL。

この患者の状態で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 低栄養
- b うつ状態
- c 閉じこもり
- d 認知機能低下
- e ロコモティブシンドローム

59 56歳の男性。左下腿の挫創を主訴に来院した。5日前に発生した地震で、倒れた家具が接触して受傷したが治療できずそのままにしていた。2日前から創部の痛みが悪化し膿性浸出液を認めるようになった。来院時の創部の写真(別冊No. 6)を別に示す。

創部を消毒する前に行うのはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬外用
- b 洗浄
- c 創部培養
- d ドレーン留置
- e 縫合

別冊

No. 6

次の文を読み、60～62の問い合わせに答えよ。

76歳の男性。強いふらつきを主訴に救急車で搬入された。

**現病歴** : 3か月前から倦怠感やふらつきが目立ち、寒がるようになった。動作緩慢、便秘および経口摂取減少も出現したが加齢によるものと本人が思い様子をみていた。本日、倦怠感とふらつきが増強したため妻が救急車を要請した。

**既往歴** : 1年4か月前に中咽頭癌に対し化学放射線療法が施行され、6か月ごとに定期通院中。

**生活歴** : 70歳まで会社役員。妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は日本酒1～2合/日を40年間。

**家族歴** : 弟が慢性肝炎。

**現症** : 意識は清明。身長165cm、体重60kg。体温35.8℃。心拍数48/分、整。血圧98/68mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>97%(room air)。皮膚は乾燥しているが、色素沈着は認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内は乾燥しているが、咽頭発赤は認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(−)、糖(−)、ケトン体(−)、潜血(−)。血液所見：赤血球362万、Hb11.7g/dL、Ht35%、白血球4,100、血小板14万。血液生化学所見：総蛋白6.3g/dL、総ビリルビン0.5mg/dL、AST34U/L、ALT32U/L、LD220U/L(基準124～222)、尿素窒素15mg/dL、クレアチニン1.1mg/dL、血糖92mg/dL、総コレステロール288mg/dL、Na138mEq/L、K2.8mEq/L、Cl101mEq/L、TSH98μU/mL(基準0.2～4.0)、FT<sub>3</sub>1.8pg/mL(基準2.3～4.3)、FT<sub>4</sub>0.1ng/dL(基準0.8～2.2)、コルチゾール12.4μg/dL(基準5.2～12.6)、CRP0.1mg/dL。心電図は洞性徐脈でST-T変化を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比48%。

60 この患者で予測される身体所見はどれか。2つ選べ。

- a 多毛
- b 甲状腺圧痛
- c 両手指振戦
- d 非圧痕性浮腫
- e アキレス腱反射弛緩相遅延

61 この患者の血液検査で高値と予想されるのはどれか。2つ選べ。

- a ALP
- b アルブミン
- c クレアチンキナーゼ
- d LDL コリステロール
- e 抗 TSH 受容体抗体〈TRAb〉

62 初療室で輸液を開始した。

次に行う対応で適切なのはどれか。

- a 利尿薬静注
- b ヨウ素含有食品摂取
- c 甲状腺ホルモン薬内服
- d 脂質異常症治療薬内服
- e 塩化カリウム液急速静注

次の文を読み、63～65の問い合わせに答えよ。

64歳の女性。嘔吐を主訴に来院した。

**現病歴**： 今朝、恶心で目が覚め、黒色物を嘔吐したため、夫とともに受診した。

**既往歴**： 40歳時に胆囊炎で手術。Parkinson病でレボドパ〈L-dopa〉を内服している。2週間前に生じた右大腿部痛で、NSAIDを内服している。52歳で閉経。

**生活歴**： 夫と2人暮らし。喫煙歴と飲酒歴はない。

**家族歴**： 母がうつ病にて投薬治療中。

**現 症**： 意識は清明。身長160cm、体重48kg。体温36.4℃。脈拍108/分、整。血圧108/60mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>97%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で右季肋部に小手術痕を認める。腸雑音は亢進している。上腹部正中に軽度の圧痛を認める。肝・脾を触知しない。

**検査所見**： 血液所見：赤血球385万、Hb 11.7g/dL、Ht 35%、白血球8,500、血小板22万、PT-INR 1.1(基準0.9～1.1)。血液生化学所見：総蛋白6.2g/dL、アルブミン3.8g/dL、総ビリルビン1.0mg/dL、AST 28U/L、ALT 23U/L、LD 214U/L(基準124～222)、ALP 41U/L(基準38～113)、γ-GT 10U/L(基準9～32)、CK 83U/L(基準41～153)、尿素窒素25mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、尿酸4.6mg/dL、血糖112mg/dL、HbA1c 5.8%(基準4.9～6.0)、Na 137mEq/L、K 4.1mEq/L、Cl 98mEq/L。

63 まず行うべき対応はどれか。

- a 輸 液
- b 輸 血
- c 抗菌薬投与
- d アトロピン投与
- e ノルアドレナリン投与

64 緊急で上部消化管内視鏡検査を行うこととした。

内視鏡検査前に確認することで、優先度が高いのはどれか。

- a 妊娠出産歴
- b 本日の排便回数
- c 香辛料摂取の嗜好
- d *Helicobacter pylori* の除菌歴
- e 局所麻酔薬に対するアレルギー歴

65 上部消化管内視鏡検査の胃前庭部小弯像(別冊No. 7A)と十二指腸像(別冊No. 7

B)とを別に示す。露出血管を伴う潰瘍は認めなかった。

この患者への対応で適切なのはどれか。

- a 異物除去術
- b クリッピング
- c 酸分泌抑制薬投与
- d 内視鏡的硬化療法
- e 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)



次の文を読み、66～68の問い合わせに答えよ。

73歳の女性。記銘力低下を主訴に長女に連れられて来院した。

**現病歴** : 2か月前から急に物忘れがひどくなり、家族に心配され来院した。①バスに乗って買い物に行っても、②レジでの支払いができなくなり、生活用品は長女が買って届けている。食事は宅配のお弁当を利用しており、③ひとりで食べられる。しかし偏食のため食べ残しが多い。④着替えは自分でできる。最近は家で過ごす時間が長くなり、友人から誘われても⑤趣味のゲートボールに行かなくなつた。

**既往歴** : 18歳時に虫垂炎で手術歴あり。

**生活歴** : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。車で30分の距離に長女夫婦が住んでいる。アレルギー歴はない。

**家族歴** : 父は心筋梗塞で死亡。母は肺炎で死亡。夫は梅毒罹患歴があり、3年前、75歳時に肺癌で死亡。

**現 症** : 意識は清明。意思疎通は可能で、礼節は保たれている。身長157cm、体重52kg。体温36.2℃。脈拍84/分、整。血圧128/76mmHg。呼吸数12/分。皮膚と粘膜に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は右下腹部に手術痕を認める。歩行はゆっくりだが、前傾姿勢は認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白（-）、糖（-）。血液所見：赤血球438万、Hb 13.2g/dL、Ht 40%、白血球6,800、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.5g/dL、アルブミン3.5g/dL、AST 26U/L、ALT 18U/L、LD 162U/L（基準124～222）、γ-GT 16U/L（基準9～32）、アンモニア22μg/dL（基準18～48）、尿素窒素16mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、血糖96mg/dL、Na 142mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 98mEq/L、Ca 8.6mg/dL。CRP 0.1mg/dL。

66 下線部のうち、基本的日常生活動作〈ADL〉に該当するものはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

67 血中梅毒トレポネーマ抗体〈TPHA〉と非トレポネーマ脂質抗体〈RPR〉はいずれも陽性、ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉抗原抗体は陰性であった。頭部単純CTで明らかな異常を認めない。

記銘力低下の原因を鑑別するために追加すべき血液検査項目はどれか。2つ選べ。

- a 葉酸
- b ビタミンD
- c ビタミンB1
- d  $\beta_2$ -マイクログロブリン
- e 甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉

68 追加血液検査はいずれも基準範囲内であった。治療が必要な梅毒と判断し、患者本人と長女に説明することになった。

説明の内容で誤っているのはどれか。

- a 「脳脊髄液検査を行います」
- b 「ペニシリン系抗菌薬で治療します」
- c 「家族の方は抗菌薬の予防内服が必要です」
- d 「治療終了後も定期的に血液検査を行います」
- e 「トイレの共用で家族に感染することはありません」

次の文を読み、69～71の問い合わせに答えよ。

60歳の男性。激しい胸痛と息苦しさを主訴に救急車で搬入された。

**現病歴**： 7日前から10分程度の平地歩行で前胸部の絞扼感と息苦しさとを自覚していたが、5分程度の休息で症状は消失していた。本日午後10時に勃起不全の治療薬としてPDE5（phosphodiesterase5）阻害薬を服用した。午後10時30分から突然の強い胸痛を自覚し、30分以上持続したため妻が救急車を要請した。

**既往歴**： 10年前から糖尿病で経口糖尿病薬、1年前から勃起不全に対してPDE5（phosphodiesterase5）阻害薬を服用中である。

**生活歴**： 喫煙は10本/日を40年間。飲酒は機会飲酒。妻と2人暮らし。

**家族歴**： 母が糖尿病。

**現 症**： 胸痛で苦悶様の顔貌をしているが呼びかけには応じる。身長169cm、体重72kg。体温36.3℃。心拍数56/分、整。血圧80/46mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub>96%（room air）。冷汗を認め、四肢末梢に冷感を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。12誘導心電図でII、III、aVFのST上昇を認める。右側胸部誘導でもST上昇を認める。心エコー検査では下壁の壁運動低下に加えて右室の壁運動低下も認める。

69 次に行うべき処置で誤っているのはどれか。

- a ヘパリンの静注
- b アスピリンの経口投与
- c ドブタミンの点滴静注
- d ニトログリセリンの舌下
- e 生理食塩液の急速点滴静注

70 緊急カテーテル検査の準備中に突然うめき声をあげてその後動かなくなった。心電図モニターの波形(別冊No. 8)を別に示す。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a 気管挿管
- b 電気的除細動
- c 心室ペーシング
- d リドカイン静注
- e アミオダロン静注

別 冊

No. 8

71 洞調律に復帰後、緊急冠動脈造影検査のためカテーテル室に移動した。平均血圧60 mmHg 以上の維持が困難で、心拍数も 120/分を超えて不穏状態となった。

次に行う治療で適切なのはどれか。

- a 植込み型除細動器
- b 永久ペースメーカー
- c 補助人工心臓〈VAD〉
- d 大動脈内バルーンパンピング〈IABP〉
- e ECMO〈Extracorporeal membrane oxygenation〉

次の文を読み、72~74の問い合わせに答えよ。

82歳の女性。発熱と呼吸困難を主訴に来院した。

**現病歴** : 3日前から発熱と乾性咳嗽が出現、2日前から労作時の呼吸困難も出現したため受診した。同居している家族を含め、周囲で上気道炎症状のある人はいない。

**既往歴** : 2年前から特発性間質性肺炎と診断され、3か月前の急性増悪の際にステロイドパルス療法が行われ、その後漸減しながら現在プレドニゾロン25mg/日と抗線維化薬を内服している。その他の薬は副作用のため中断している。

**生活歴** : 喫煙歴はない。自宅で夫と息子夫婦の4人暮らし。ADLは自立。毎日近所を散歩している。室内で犬を1匹飼っている。3か月前にインフルエンザワクチンと新型コロナウイルスワクチンを接種している。

**家族歴** : 父が82歳時に肺癌で死亡。

**現 症** : 意識は清明。身長155cm、体重60kg。体温37.8℃。脈拍84/分、整。血圧130/76mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub>88%(room air)。心音に異常は認めない。呼吸音は両側下肺背側にfine cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(−)、糖3+、ケトン体2+、潜血1+。血液所見：赤血球412万、Hb12.3g/dL、Ht38%、白血球11,400(分葉核好中球89%、単球1%、リンパ球10%)、血小板24万、Dダイマー1.0μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：総蛋白5.1g/dL、アルブミン3.0g/dL、総ビリルビン0.7mg/dL、AST25U/L、ALT21U/L、LD549U/L(基準124~222)、ALP39U/L(基準38~113)、γ-GT30U/L(基準9~32)、尿素窒素17mg/dL、クレアチニン0.5mg/dL、血糖144mg/dL、HbA1c6.1%(基準4.9~6.0)、Na135mEq/L、K3.9mEq/L、Cl94mEq/L、KL-64,482U/mL(基準500未満)。免疫血清学所見：CRP4.7mg/dL、β-D-グルカン210pg/mL(基準10以下)。インフルエンザウイルス迅速抗原検査陰性、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原定性検査陰性、サイトメガロウイルス抗原陰性。胸部エックス線写真(別冊No.9A)と胸部単純CT(別冊No.9B)とを別に示す。

別 冊

No. 9 A、B

72 気管支鏡検査を行い、気管支肺胞洗浄液を採取した。

確定診断に有用な染色法はどれか。

- a Gram 染色
- b Grocott 染色
- c Congo-Red 染色
- d Papanicolaou 染色
- e Ziehl-Neelsen 染色

73 想定される疾患のリスクファクターはどれか。

- a 性 別
- b 年 齢
- c 耐糖能異常
- d ワクチン接種
- e プレドニゾロン内服

74 入院して治療を行ったが、呼吸状態が悪化し、マスク 5L/分の酸素投与でも  $\text{SpO}_2$  が 90 % を維持できない状態となり、本人の呼吸困難も悪化した。終末期における医療について、患者本人から侵襲的な処置を希望しないこと、「苦しくないよう、痛くないようにして欲しい」という希望があることを家族が聞いており、家族から本人の意思を尊重して治療を進めて欲しいと話があった。また今回の入院時にも、同様のことを本人が主治医をはじめ医療スタッフに話しており、診療録にもこの意向が記載されていた。

オピオイドの投与とともにに行うのはどれか。

- a 気管切開
- b 気管挿管
- c 輪状甲状腺帯切開
- d ネーザルハイフローによる酸素投与
- e ECMO〈Extracorporeal membrane oxygenation〉

75 10か月の男児。嘔吐と下痢を主訴に母親に連れられて来院した。診察時の体重は10kg。血清Na濃度は132mEq/Lであった。

正常血清Na濃度を140mEq/Lとして、Naの欠乏量を求めよ。

ただし、患児の体重に対する細胞内液の割合を30%、細胞外液の割合を20%とする。

また小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：  mEq

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9









